

市の指定文化財④

一石六地藏石仏

ていました。

一石に六地藏が彫られたものは珍しく、北河内地域では今のところ2例しか知られていません。

なお、このような形のもを「板碑」と呼ぶ場合もあります。

笑みを浮かべたような顔立ち

は、地藏菩薩の慈悲を表し、道

を行き交う

者を見守つ

ているよう

にも思えま

す。

(市史編纂

委員 岡村

喜史)

阪奈道路の竜間バス停から少し坂を登って東に入る道は、古堤街道の延長にあたり、奈良に抜ける旧道です。阪奈道路からこの道を200mほど入ったところの分岐点に、石柱で石の屋根を支えた中に六地藏の石仏が安置されています。

高さ48センチ、幅86センチの舟形光背に、身丈約45センチの半肉彫り地藏菩薩立像が、上段に3体、下段に3体と並んでいます。地藏菩薩の姿は、錫杖を持つものや宝珠を持つもの、または合掌姿のものなどさまざまです。

像の左右に彫られた銘によると、永禄10年(1567)2月23日に、六斎念仏の供養の講衆55人によって造立されたことが分かります。

六斎念仏とは、毎月8・14・15・23・29・30日の六斎日に精進して念仏を称えるもので、併せて念仏踊りが行われることもあったようです。室町時代には奈良県や大阪府で特に盛んに行われ



龍間所在

